



IT Holdings

# 2012年3月期 第2四半期決算説明資料

平成23年11月2日

ITホールディングス株式会社

Copyright © 2011 IT Holdings Corporation

ITホールディングスグループ

## 2012年3月期第2四半期(累計) 業績概要

2012年3月期通期 業績見通し

重点施策の進捗状況

参考資料

(ご注意)

前期セグメント別計数に集計ミスがあったため、修正の上掲載しています。ITHD連結の修正内容については、添付資料に掲載していますので、ご参照下さい。

- ・欧州での景気の停滞や円高の進行等が懸念されたが、顧客のIT投資に対する姿勢が前向きに変化し始めるなど、好転の兆しが見られた。
- ・受注の堅調な推移及び徹底したコスト削減により、売上高・営業利益・経常利益は、期初計画を上回った。
- ・強固な経営体制確立のための構造改革を実施。施策効果に先行して一過性の費用を特別損失に計上した。

ITHD連結 (単位:百万円)	2012年3月期 第2四半期(累計)	前年同期比	期初計画比
売上高	154,682	+0.4%	+2.1%
営業利益	4,683	+0.3%	+56.1%
経常利益	4,679	▲1.7%	+67.1%
四半期純利益	▲1,469	—	—
受注高	89,188	+13.5%	
期末受注残	60,589	+17.5%	

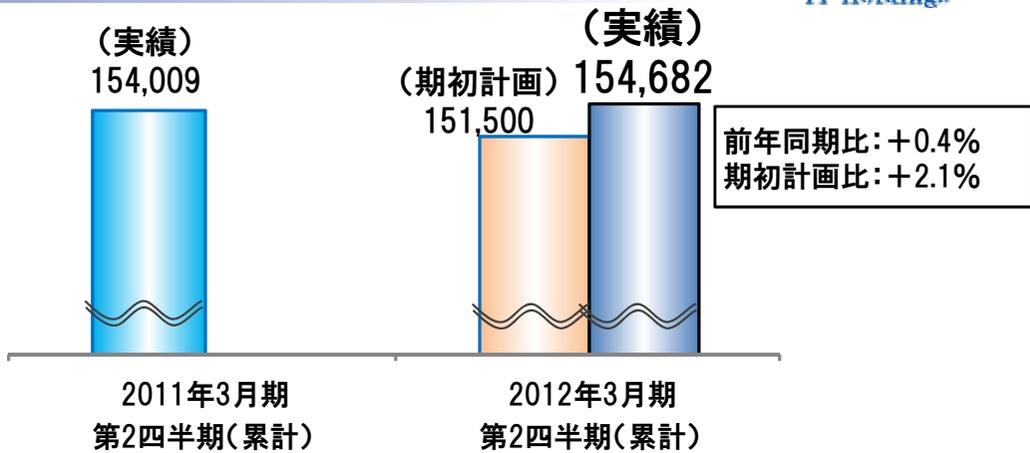
2011/10/4付で上期業績予想修正を公表しています。

# 2012年3月期第2四半期(累計)

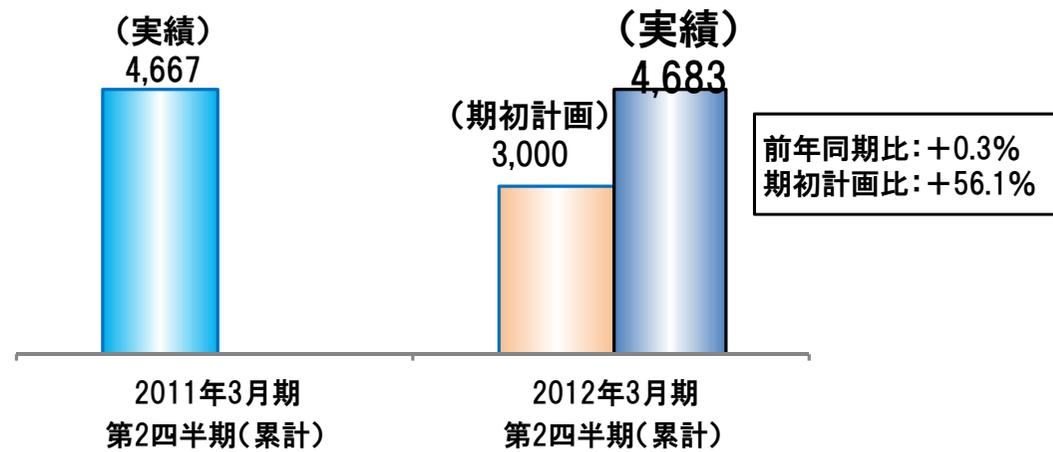


(単位:百万円)

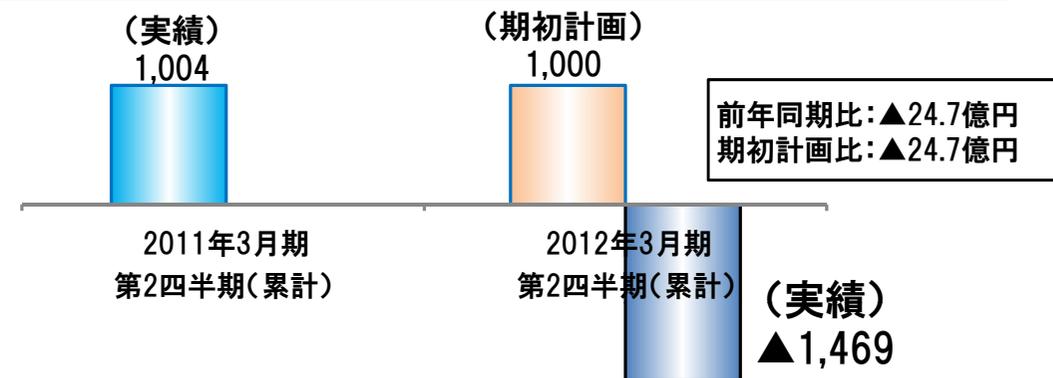
**➤売上高**  
製造・流通向け等の好調により、産業ITサービスが全体を牽引。金融ITサービスの落ち込みをカバーし、前年同期比・期初計画比ともに増収。



**➤営業利益**  
増収による寄与のほか、徹底したコスト削減を推進。「GDC御殿山」の初期投資をコスト削減でまかない、前年同期比・期初計画比で増益を実現。



**➤四半期純利益**  
グループのオフィス集約による特別損失約18億円、TISの全社構造改革に伴う特別転身支援プログラムの実施による特別損失約44億円を計上した影響を大きく受けた。



# 2012年3月期第2四半期(累計) 主要セグメント別損益状況

(単位:百万円)



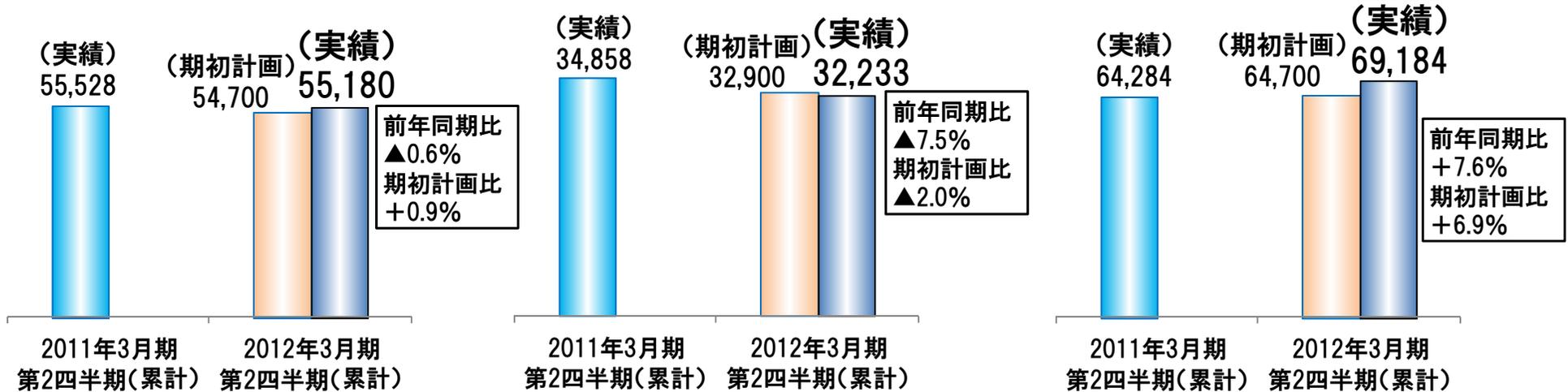
IT Holdings

## ITインフラストラクチャーサービス

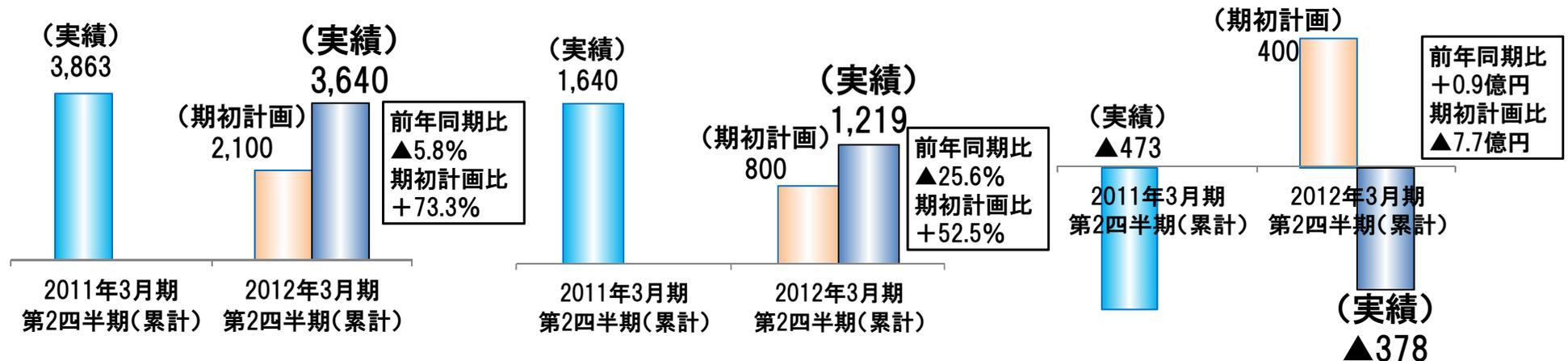
## 金融ITサービス

## 産業ITサービス

売上高



営業利益



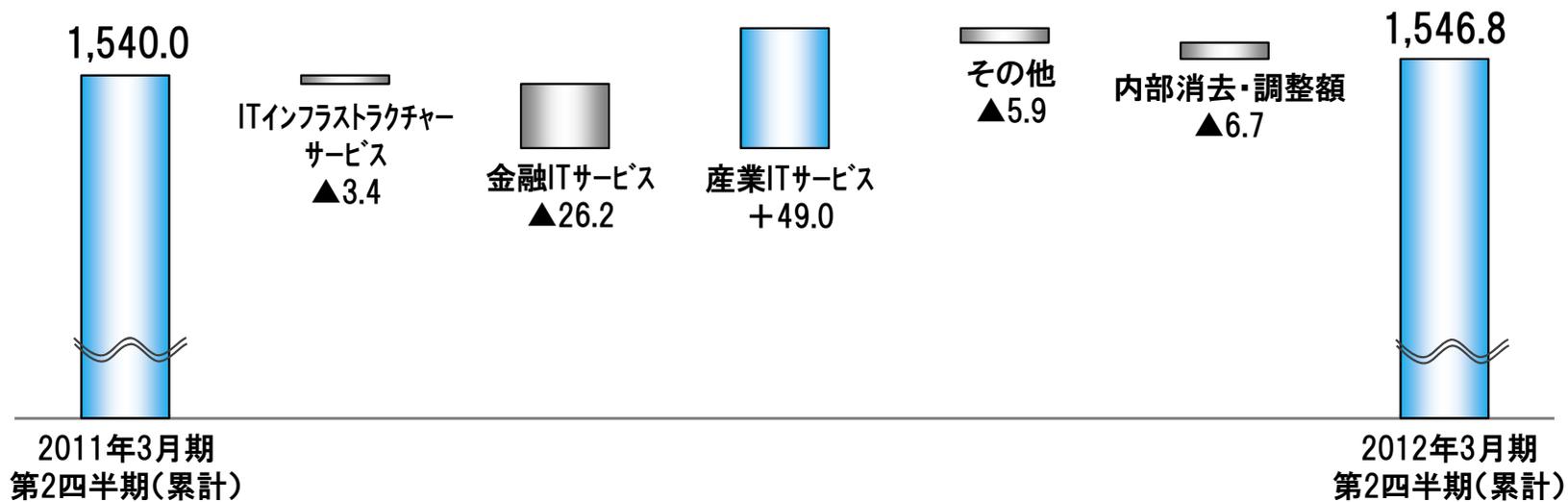
(売上高)BCP・DR関連の堅調な需要増が続く一方、金融系一部顧客に業務縮小がみられた。  
(営業利益)GDC御殿山の初期投資をコスト削減でまかない、計画比増益。

(売上高)大手生保の大型投資が一巡、カード系企業のIT投資も横ばい傾向。  
(営業利益)減収に伴う影響をコスト削減でカバーし、計画比増益を確保。

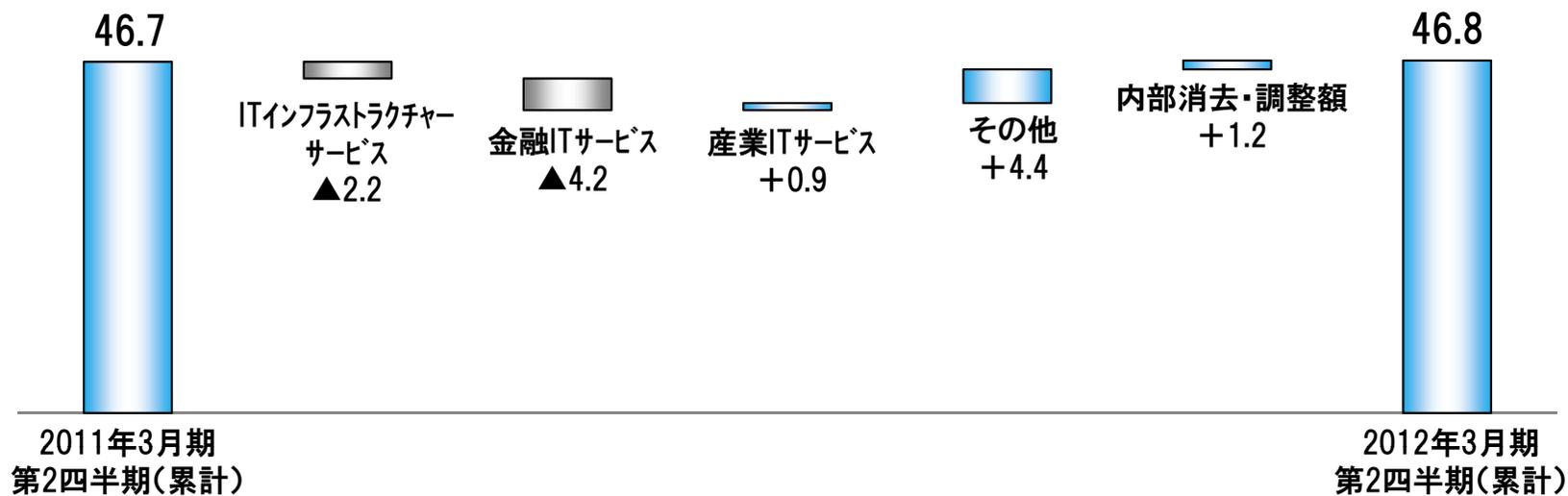
(売上高)流通、サービス業で中小型案件を多く積み上げ、大幅増収。  
(営業利益)増収効果やコスト削減を推進したが、不採算案件の発生等により計画通りの改善とはならず。

各セグメントの売上高は、セグメント間の売上高を含んだ数値です。

<売上高>



<営業利益>



# 2012年3月期第2四半期(累計) 受注状況

(単位:百万円)



製造・流通向け等を中心として、産業ITサービスの増加が牽引し、好調に推移。  
 →金融系既存顧客・大型案件重視からの発展的脱却と産業分野の新規開拓に注力。中小型案件の受注を拡大。

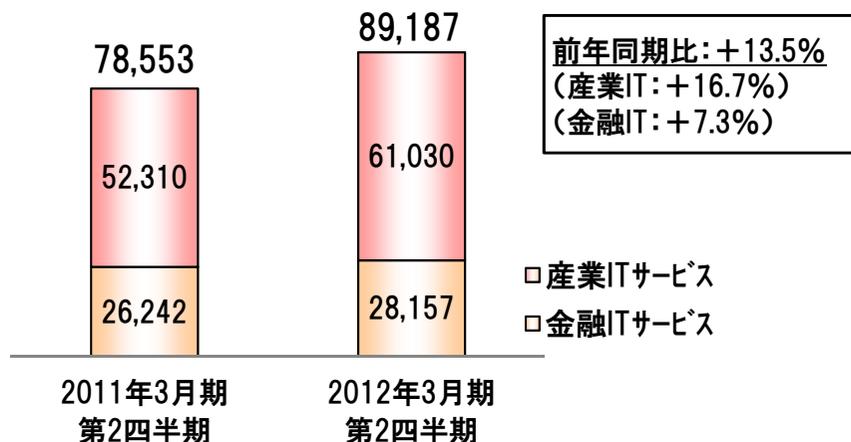
## <2011年3月期第2四半期(累計)>



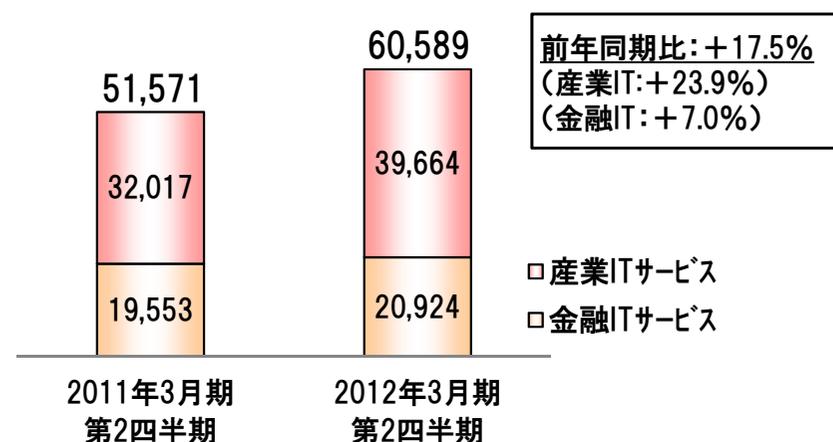
## <2012年3月期第2四半期(累計)>



### <当期受注高>



### <期末受注残>



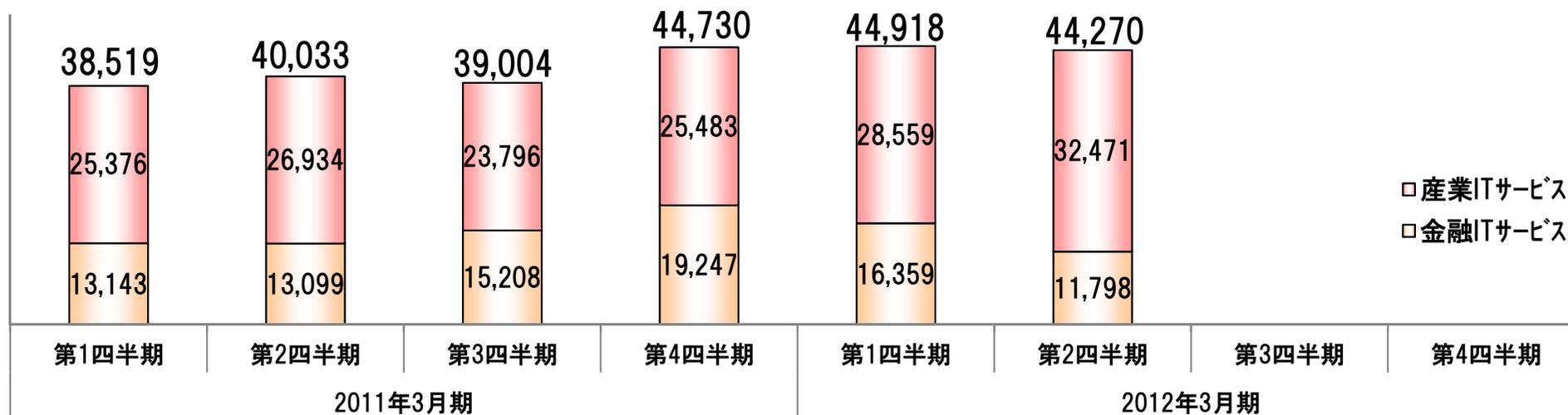
当期受注高・期末受注残高・当期売上高は「ソフトウェア開発」に係るもののみ。

# 受注状況 四半期別推移(2011年3月期～2012年3月期)

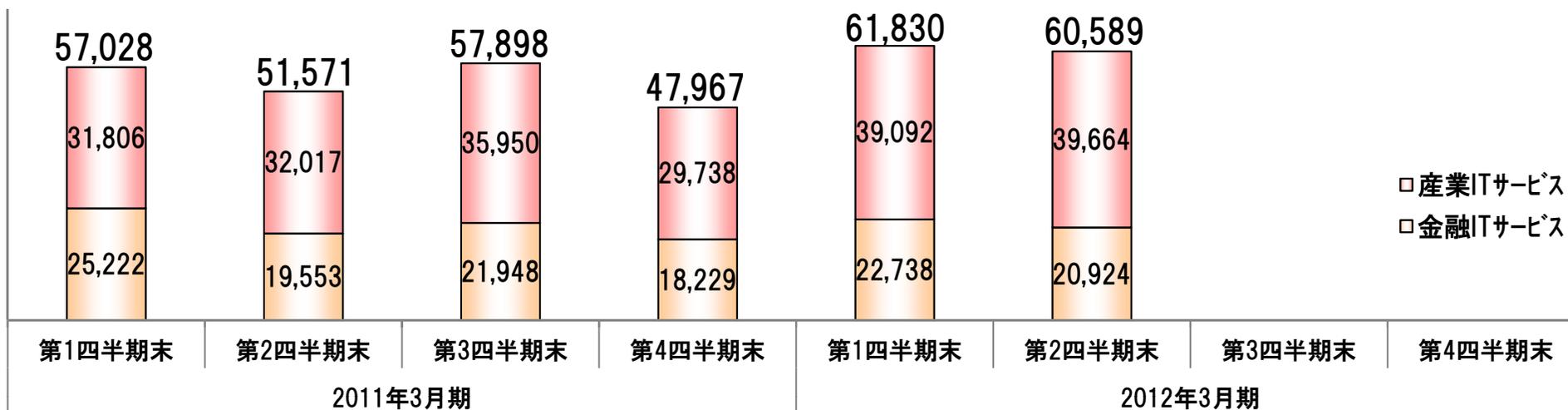
(単位:百万円)



## <当期受注高>



## <期末受注残>



当期受注高・当期末受注残高・当期売上高は「ソフトウェア開発」に係るもののみ。

2012年3月期第2四半期(累計) 業績概要

**2012年3月期通期 業績見通し**

重点施策の進捗状況

参考資料

➤ ERPを中心とした顧客のIT投資姿勢に回復傾向がみられる。

### 【金融分野】

- ・カード・信販業界は、法改正や個人消費低迷に伴う影響があり、IT投資に抑制傾向残るが、システム効率化に対する需要の高まりを当下期以降に期待。
- ・銀行業界のIT投資は、全般的に堅調に推移。既存顧客は、システム統合後の周辺システム等への需要が継続。新規顧客も獲得。



(横這い続く)

### 【産業分野】

- ・プロセス系製造業、サービス業を中心に、ここ数年抑制していたサービス強化やERP案件の再開などでのIT投資に前向きになってきている。
- ・案件数は増加傾向にあるが、規模に小口化の傾向が見られる。収益性確保のためのビジネスモデルの転換に注力。



(改善)

### 【公共分野】

- ・官庁・地方公共団体では、震災復興や災害対策の需要は増加傾向。
- ・予算削減の影響で、価格競争はより厳しくなる見込み。



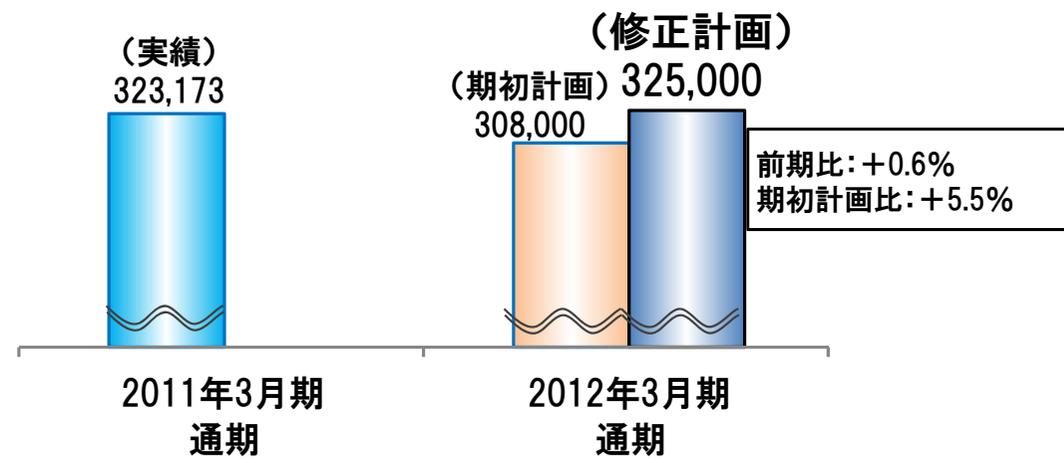
(やや改善)

ITHDグループの顧客動向も参考にしているため、一般の状況と異なる場合があります。

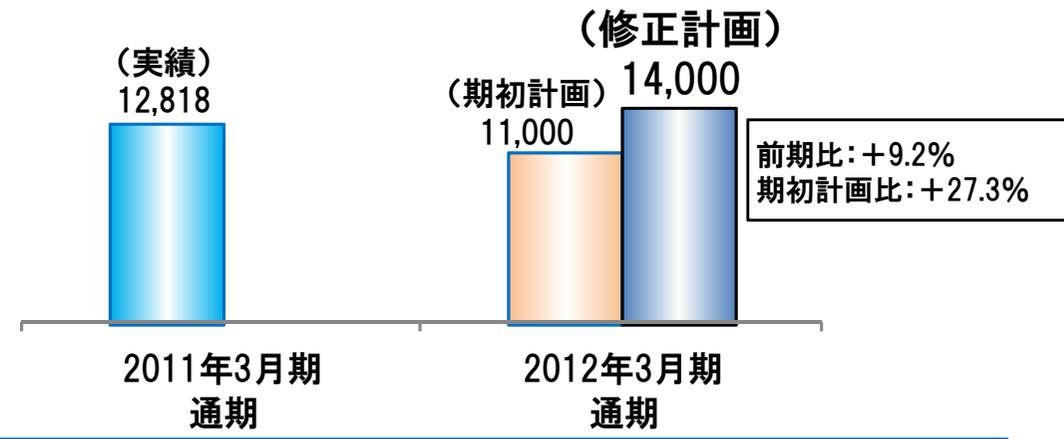
- ・受注、受注残の堅調な推移と上期実績等を勘案し、売上高、営業利益、経常利益の予想を引き上げた。
- ・当期純利益については、強固な経営体制の確立のために実施した施策に伴う一過性の費用を特別損失に計上することを反映させた。  
(上期に約62億円を計上、下期に約14億円を計上予定)
- ・配当予想(期末1株あたり18円)に変更はなし。

ITHD連結 (単位:百万円)	2012年3月期 通期(修正計画)	前期比	期初計画比
売上高	325,000	+0.6%	+5.5%
営業利益	14,000	+9.2%	+27.3%
経常利益	13,500	+6.9%	+28.6%
当期純利益	2,000	▲66.6%	▲42.9%

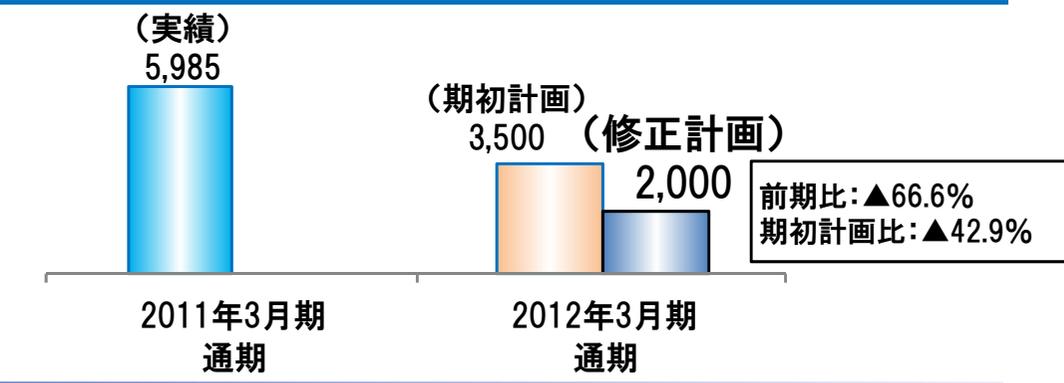
➤ **売上高**  
 上期に引き続き、産業ITサービスが好調で全体を牽引する見込み。金融ITサービスも持ち直し傾向にある。



➤ **営業利益**  
 上期の計画比増益分および構造改革に伴う一連の人件費軽減効果等により、前期実績、期初計画を上回る見込み。



➤ **当期純利益**  
 強固な経営体制確立のための抜本的な施策による特別損失(特別転身支援プログラム約44億円、オフィス移転・集約約32億円)を計上。



# 2012年3月通期 主要セグメント別損益状況予想

(単位:百万円)

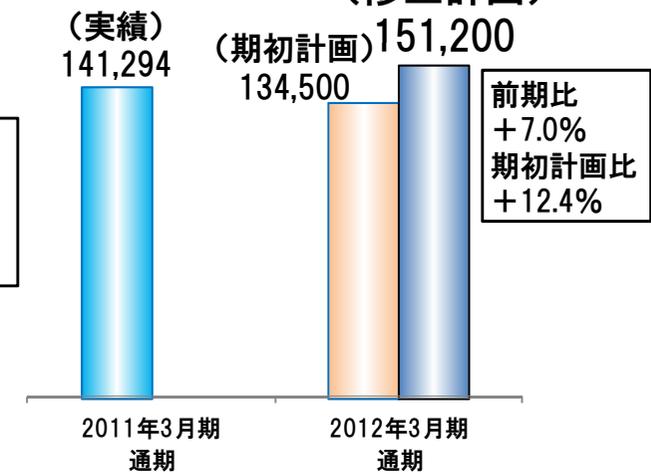
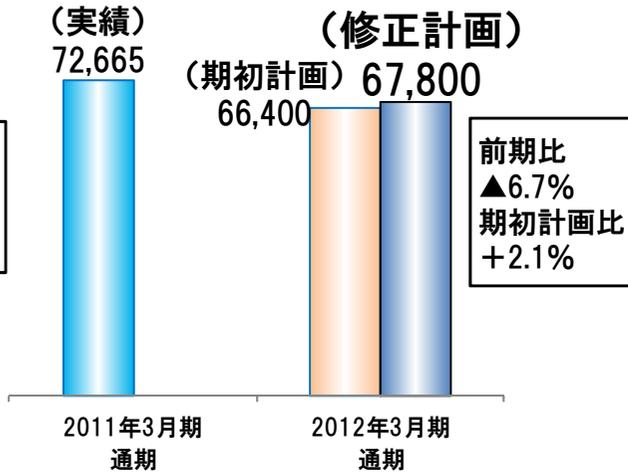
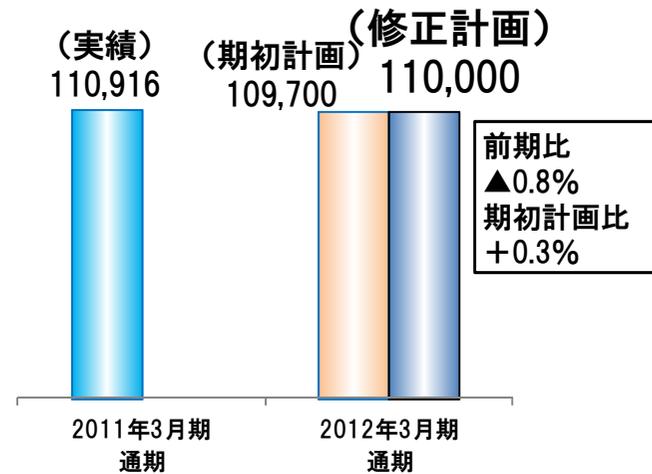


## ITインフラストラクチャーサービス

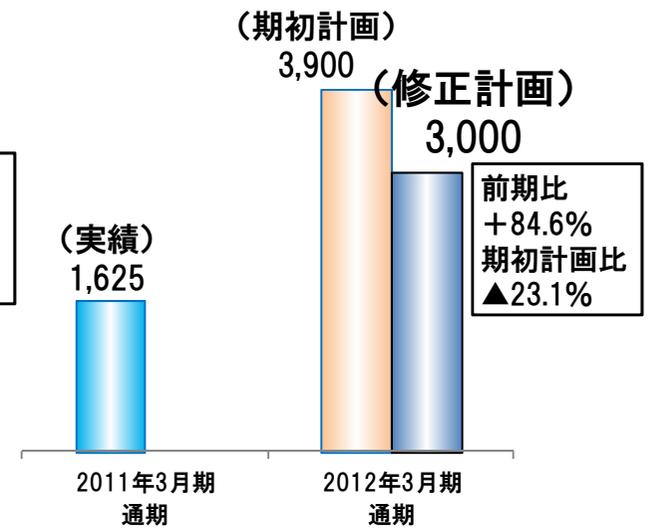
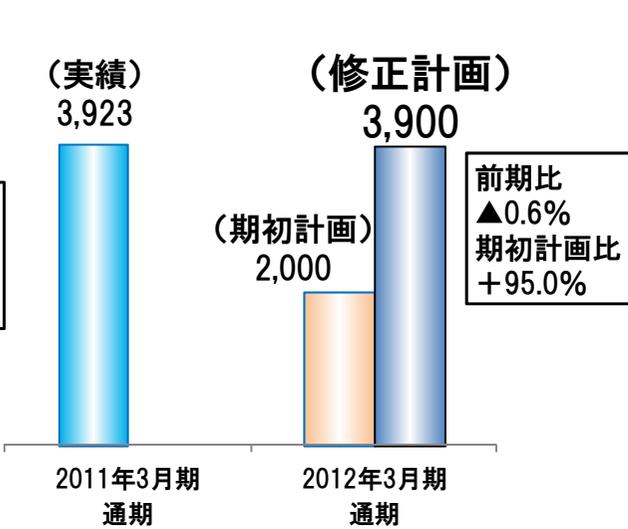
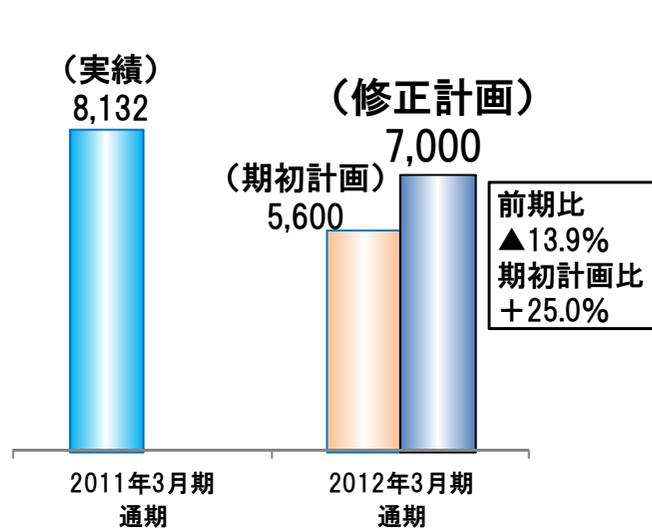
## 金融ITサービス

## 産業ITサービス

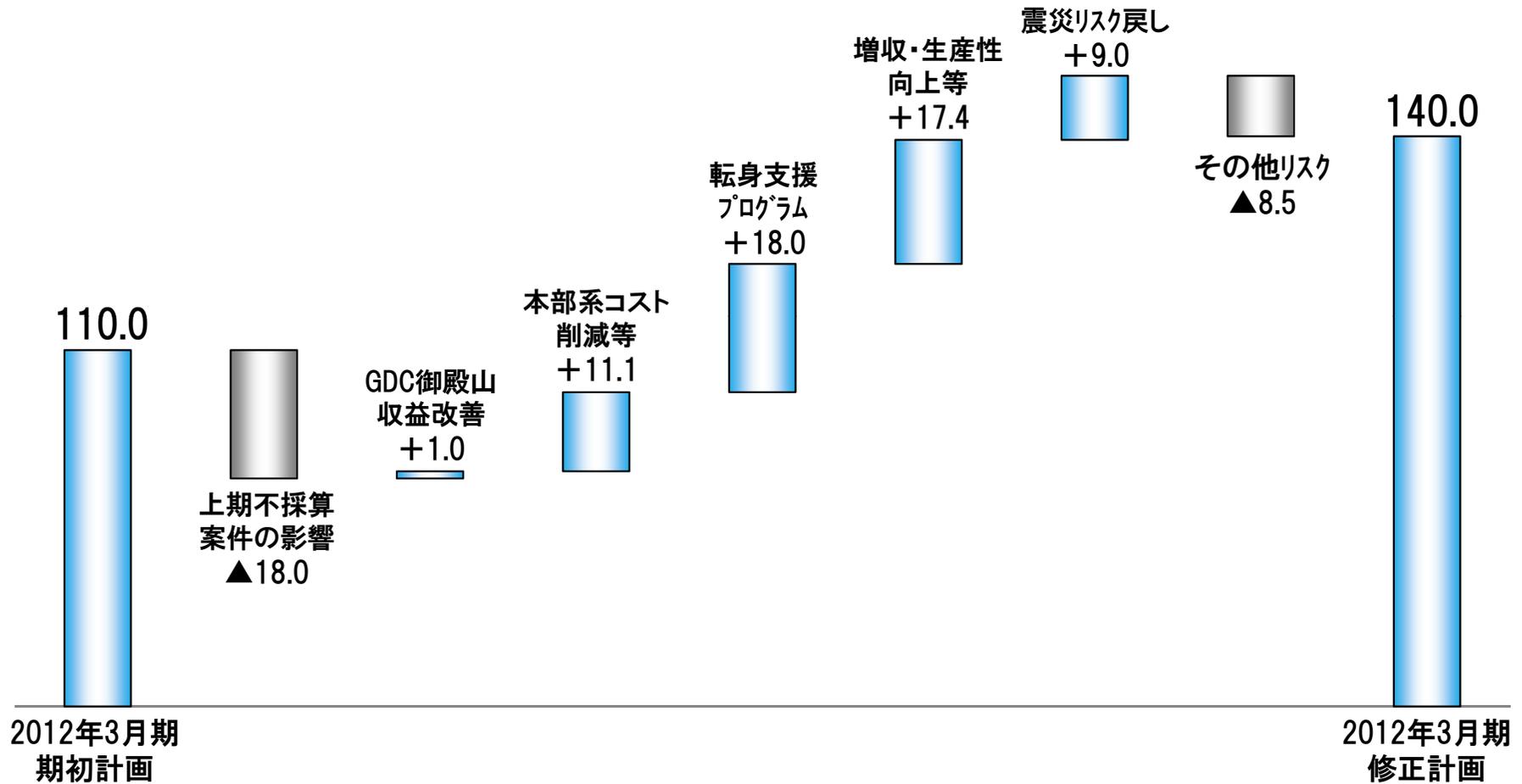
売上高



営業利益



各セグメントの売上高は、セグメント間の売上高を含んだ数値です。



<基本方針>

株主の皆様への長期的かつ総合的な利益還元を重要な経営課題と認識。

業績動向や財務状況、事業発展に備えるための内部留保の充実を勘案。

連結配当性向30%程度を目安として安定的に配当を継続するよう努める。

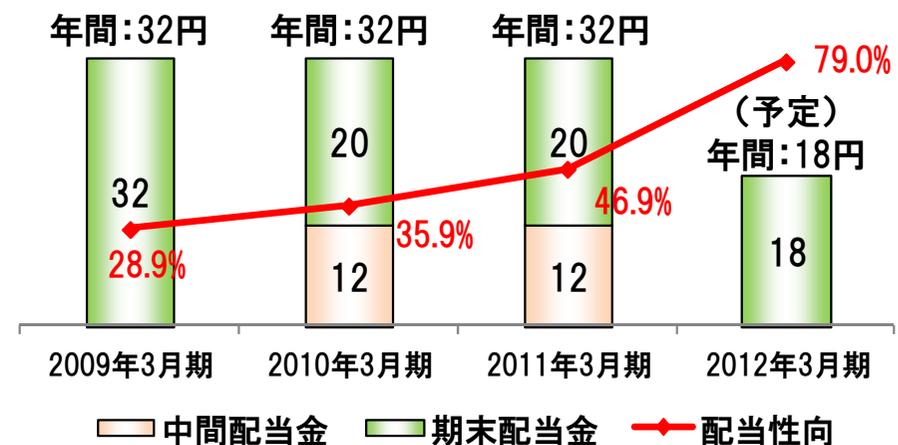
<2012年3月期 配当に対する考え方>

- ・基本方針に基づき、期初計画で1株当たり18円と設定。
- ・期初計画外の構造改革による特別損失の影響により、予想配当性向の水準は基本方針と大きく乖離しているが、あくまで特殊要因によるもの。

- ・構造改革効果が今後見込まれることを踏まえ、来期以降の飛躍を期し、期初計画を維持。

1株当たり期末配当金:18円(予定)

(1株当たり配当金の推移)



2012年3月期第2四半期(累計) 業績概要

2012年3月期通期 業績見通し

**重点施策の進捗状況**

参考資料

## 1 新グループフォーメーションの定着

- ・新TIS(3社合併)の経営基盤の早期確立
- ・インテックによる子会社再編
- ・新シェアードサービス会社のスムーズな立ち上がりと効果発揮

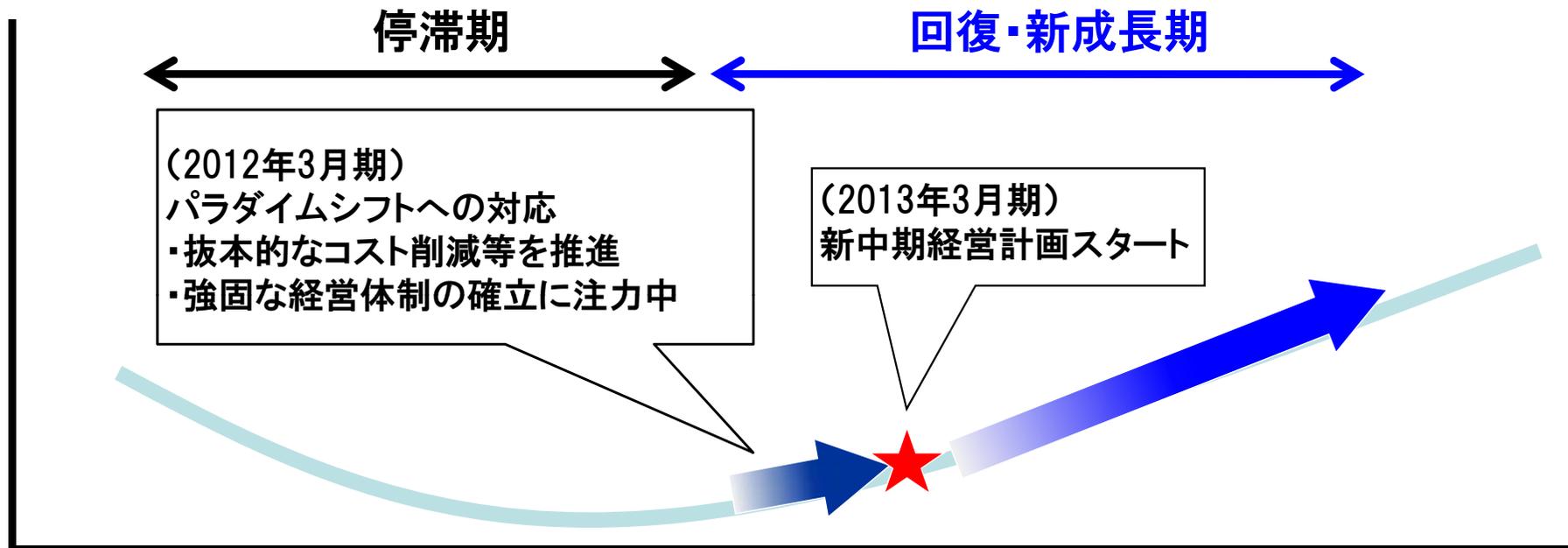
## 2 グループ経営基盤及び収益体質の強化

- ・赤字プロジェクトの撲滅
- ・収益管理の強化と早期状況把握
- ・新マネジメント・アプローチの適用によるグループ横断的経営の進化

## 3 トップラインの伸長とストックビジネスの拡大

- ・営業力の強化と顧客基盤の拡大
- ・クラウドビジネスとデータセンター活用によるBCPビジネスの進展・拡大

## 4 中期的展望に立ったサービス化・ソリューション化への備え(投資)



## 2013年3月期～2015年3月期の中期経営計画を策定中

(論点)

- ①パラダイムシフトに向けた本格的なビジネスモデルを転換
- ②先行投資に耐えうる強固な財務基盤
- ③グループリソースの最適配置による総合力の発揮
- ④厳しい環境下でも新規開拓を進めることのできる強固な収益体質への変革

新グループ  
フォーメーションの定着

グループ経営基盤及び  
収益体質の強化

トップラインの伸長と  
ストックビジネスの拡大

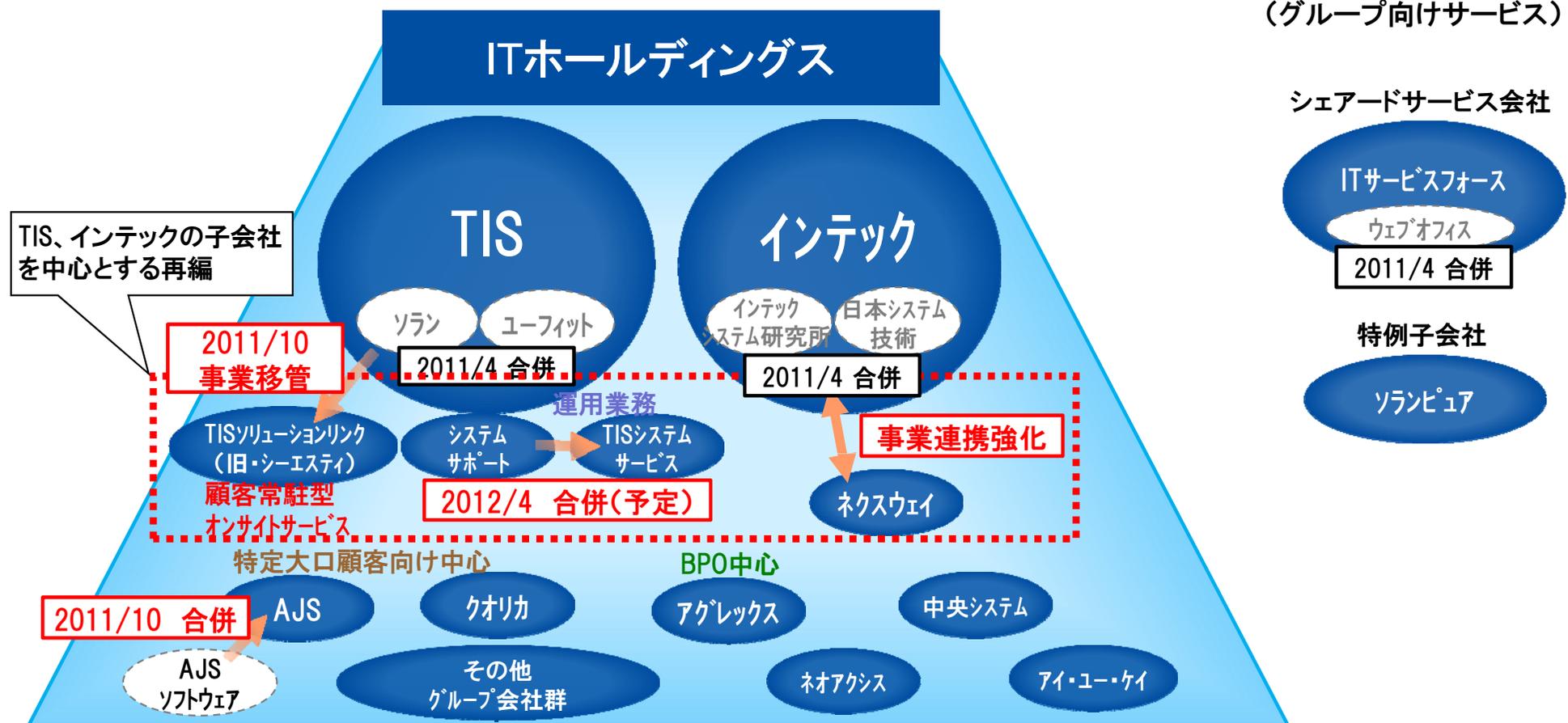
中期的展望に立ったサービス化・  
ソリューション化への備え(投資)

経営環境の大きな変化に合わせ、競争力強化の観点から、  
機能別の整理・統合・再編を当期も推進中。

効率化の観点から  
グループ共通機能の集約を推進

<事業会社>

<特定機能会社>  
(グループ向けサービス)



シェアードサービス会社



特例子会社



今後は不採算事業からの徹底も視野に入れながらグループフォーメーションの再編を検討する方針。

新グループ  
フォーメーションの定着

グループ経営基盤及び  
収益体質の強化

トップラインの伸長と  
ストックビジネスの拡大

中期的展望に立ったサービス化・  
ソリューション化への備え(投資)

## ・グループオフィスの移転・集約

計9社・約7,000名(東京地区の約60%)が移動、スペースは25%減少

<目的>

効率的かつ効果的なグループ運営の推進

- ・コミュニケーションの円滑化・活性化による連携強化
- ・グループガバナンスの強化
- ・全体コストの削減

<移転対象>

ITHD、TIS、クオリカ、AJS、アイ・ユー・ケイ、  
中央システム、TISリース、ソランピュア、BMコンサルタンツ

<移転時期>

2011年12月～2012年2月(順次移転予定)

<所在地>

住友不動産新宿グランドタワー 14階～26階  
(新宿区西新宿8丁目17番1号)

移転関連費用約32億円を特別損失に計上(予定)。  
(当上期:約18億円、当下期:約14億円)

本件に伴う固定費削減効果は約9億円を見込む。

特別損失  
約32億円  
(12/3期)

固定費削減  
約9億円/年  
(13/3期～)



新グループ  
フォーメーションの定着

グループ経営基盤及び  
収益体質の強化

トップラインの伸長と  
ストックビジネスの拡大

中期的展望に立ったサービス化・  
ソリューション化への備え(投資)

TIS: 合併施策の実行スピードを上げ、当初より前倒しで実施中。

	2011年4月1日		2012年4月1日
組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>本社系組織を統合</li> <li>事業部系組織も原則統合(一部に各社ラインを残す)</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">2011/10 実施</div> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業部系組織の完全統合</li> </ul>
人事制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>就業規則、健保組合、保険、採用の統合</li> <li>人事制度、退職金・年金制度は新制度策定まで旧制度を併存</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新人事制度の基本設計を上期完了</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新人事制度の運用開始</li> </ul>
オフィス	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京地区事業所再編(本社系、金融系、産業・公共系の各本部ごとに再配置)</li> <li>大阪地区事業所統合</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">2011/12~ 順次移転・集約</div>  <p>※ITHDグループのオフィス統合に合わせて実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京地区事業所統合</li> <li>名古屋地区事業所統合</li> </ul>
事務	<ul style="list-style-type: none"> <li>TISの会計制度、業務手順に統合</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>ITHD次期グループシステムに準拠した制度・業務に移行開始</li> </ul>
社内システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>TISの現行システムに統合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>給与システム統合</li> <li>コミュニケーションツール刷新予定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ITHD次期グループシステムを核に新システムに移行開始</li> </ul>
調達	<ul style="list-style-type: none"> <li>各社調達方式を併存(パートナー、仕入れ先、間接材の購買先等)</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">順次統合同中</div> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>調達方式を統合(集中調達化)</li> </ul>
子会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>シェアードサービス会社(合併)、特例子会社(ITHD直下)の再編</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">2011/10 オンサイトサービスの 子会社移管</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;">2012/4 運用子会社の 合併</div> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業系子会社の再編開始</li> </ul>

新グループ  
フォーメーションの定着

グループ経営基盤及び  
収益体質の強化

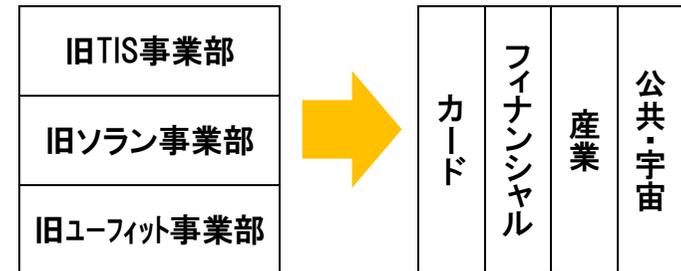
トップラインの伸長と  
ストックビジネスの拡大

中期的展望に立ったサービス化・  
ソリューション化への備え(投資)

**TIS: 合併効果の創出・最大化に向けた構造改革を推進中。**

**・合併後の融合施策を加速**

旧3社ベースでスタートした事業本部体制を当初予定よりも半年間前倒しで再編。2011年10月より、インダストリー単位で事業本部を配置。  
約3,000社の顧客基盤を最大限活用し、「トップラインの早期拡大」を図る。



**・TISソリューションリンクへオンサイトビジネスを移管**

顧客常駐型オンサイトビジネスをTISから移管。  
機能集約にあわせてシーエスティから社名変更。

2011/10 事業移管(売上高:約25億円、営業利益:約4億円)、顧客常駐型オンサイトサービスを集約



**・TISシステムサービスとシステムサポート合併を決定**

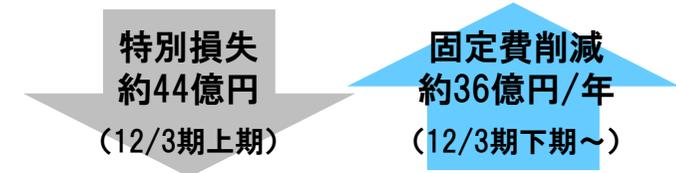
グループの運用業務を担う2社の合併により機能を集約。

2012/4 合併予定、運用業務を集約



**・抜本的な人員体制・配置の見直しを実施**

特別転身支援プログラムを実施、514名が退職。  
特別退職金の支払い及び再就職支援サービスの提供等により、当上期に約44億円の特別損失を計上。  
本件に伴う固定費削減効果は約36億円/年を見込む。



新グループ  
フォーメーションの定着

グループ経営基盤及び  
収益体質の強化

トップラインの伸長と  
ストックビジネスの拡大

中期的展望に立ったサービス化・  
ソリューション化への備え(投資)

**【全社テーマ】**

- ・金融系既存顧客、大型案件重視からの発展的脱却。
- ・産業分野の新規開拓に注力。中小型案件の受注を拡大。

**グループ各社の主な営業力強化策**

＜TIS＞

- ・社長直轄のセールスイノベーション会議を設置し、重点テーマについてはプロジェクトチーム(\*)を編成して早期実体化を推進。  
(\*)クロスセル推進、ソリューションビジネス推進、データセンタービジネス推進、営業の役割・機能検討
- ・データセンター案件の拡大施策。データセンタービジネス推進会議を中心に全社体制で営業推進を促進。

＜インテック＞

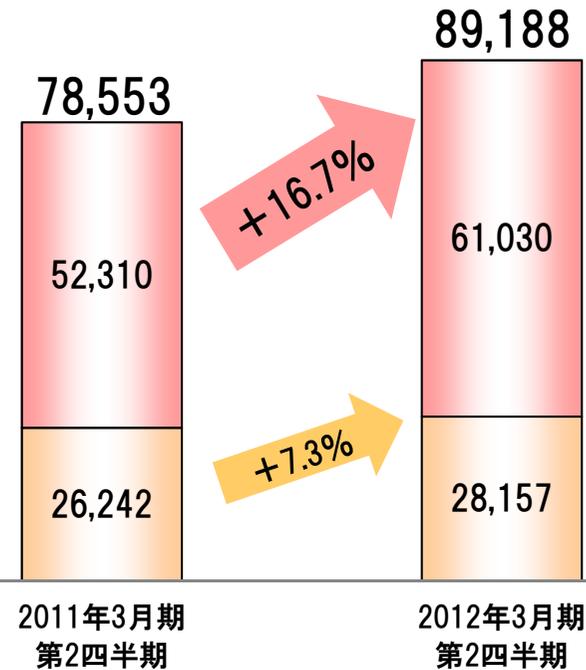
- ・社長の大号令の下、営業・開発を問わずお客様先への訪問回数を積極的に増やし、案件の着実な獲得に努めている。
- ・開発・投資を完了した新商品、新サービスの回収に努めている。  
(F<sup>3</sup>、快速サーチャー、CIVION-7th、MCFrame 等)
- ・災害対策としてのデータセンターについて、メーカー各社とアライアンスを組み、営業活動を全社的に取り組んでいる。

＜クオリカ＞

- ・全社営業機能の集約、ローテーションを行い、営業員を増強。
- ・中国現地法人の中国人社員の増強と間接販売網を整備。

＜当期受注高＞  
(単位:百万円)

前年同期比: +13.5%



□金融ITサービス □産業ITサービス

「ソフトウェア開発」に係るもののみ。

新グループ  
フォーメーションの定着

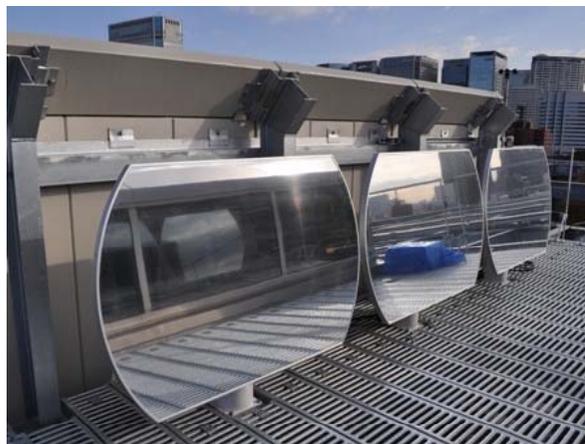
グループ経営基盤及び  
収益体質の強化

トップラインの伸長と  
ストックビジネスの拡大

中期的展望に立ったサービス化・  
ソリューション化への備え(投資)

## DR、BCPの視点から省エネ型最新構造のデータセンターへの引き合い増

	GDC御殿山	インテック万葉スクエア
所在地	東京都品川区	富山県高岡市
構造	ハイブリッド型免震構造	基礎免震構造
省エネ・ 利用効率向上	外気冷房、地中熱利用、雨水利用、太陽光発電、グリーン電力購入、自然光照明、LED照明、高効率機器、人感センサー、屋上緑化、外構緑化	太陽光発電による照明機器への給電、人感センサー、照度センサーを用いた照明の最適化、LED照明、井戸水活用、雨水利用の屋上緑化、近隣環境と調和した外観、防音・断熱サッシ
その他	PUE 1.36(設計値)	北陸電力管内 北陸新幹線新高岡駅(仮称)隣接



GDC御殿山・自然光採光(太陽追尾装置)



GDC御殿山・太陽光発電モニター



インテック万葉スクエア・屋上緑化、太陽光パネル

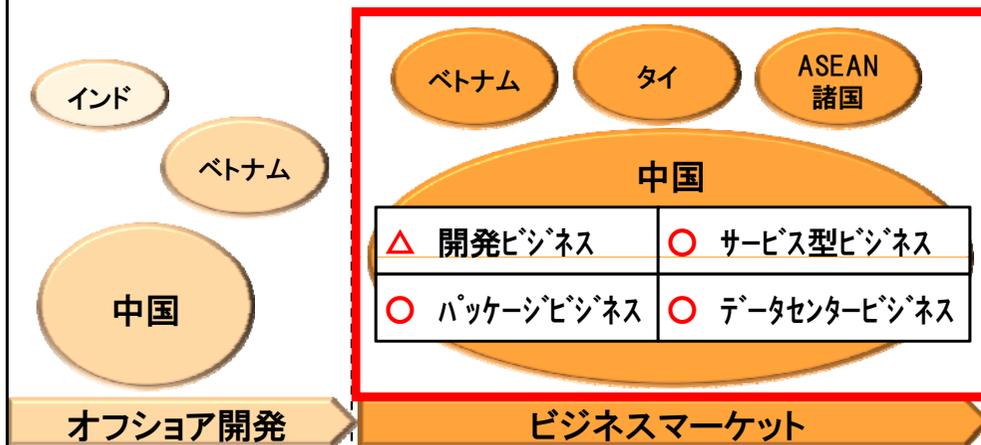
新グループ  
フォーメーションの定着

グループ経営基盤及び  
収益体質の強化

トップラインの伸長と  
ストックビジネスの拡大

中期的展望に立ったサービス化・  
ソリューション化への備え(投資)

＜アジア地域との関わり方の変遷＞



- ・海外展開の中心となる中国は、すでにオフショア開発拠点からビジネス拠点へとシフト。
- ・現地でのシステム開発よりもパッケージビジネスやサービス型ビジネスが展開しやすい。

＜ITHDグループの中国での事業展開例＞

・「AToMsQube」(クラウド対応生産管理システム)

中国の製造業(コマツ協力工場、一般顧客)  
→6ヶ月間で導入実績(稼働中2社、導入中7社)

・「TastyQube」(外食産業向け営業支援システム)

中文化終了。テスト利用で顧客1社内定。  
→国内では130社3,000店舗以上で導入実績あり。

・パッケージビジネス

「マイホームデザイナー」シリーズ(住宅、オフィスデザインツール)

「社長の右手」(販売管理システム、卸売業界に強み)  
→国内販売累計70セット以上。中国版を販売中。

・天津データセンターの活用

中国企業- 金融、公的機関  
日系企業- サービス系 等が利用

新グループ  
フォーメーションの定着

グループ経営基盤及び  
収益体質の強化

トップラインの伸長と  
ストックビジネスの拡大

中期的展望に立ったサービス化・  
ソリューション化への備え(投資)

## 注目ソリューション

AR(Augmented Reality、拡張現実)を活用したソリューション:SkyWare(スカイウェア)  
AR技術とGPS位置情報の機能を持つモバイル端末にコンテンツを配信する情報基盤の総称

採用実績 長野県佐久市様、NTTドコモ様、福岡県御供所まちづくり協議会様 他

ソリューションの特徴  
地図画面上にアイコン(絵文字)や、端末のカメラを通して画面に映る風景にデジタル情報を付け加えるARを使い、歴史背景、文化、裏話などの観光情報が提供されます。

[http://www.tis.jp/service\\_solution/skyware/](http://www.tis.jp/service_solution/skyware/) において動画を公開中。

地図画面



AR画面



新グループ  
フォーメーションの定着

グループ経営基盤及び  
収益体質の強化

トップラインの伸長と  
ストックビジネスの拡大

中期的展望に立ったサービス化・  
ソリューション化への備え(投資)

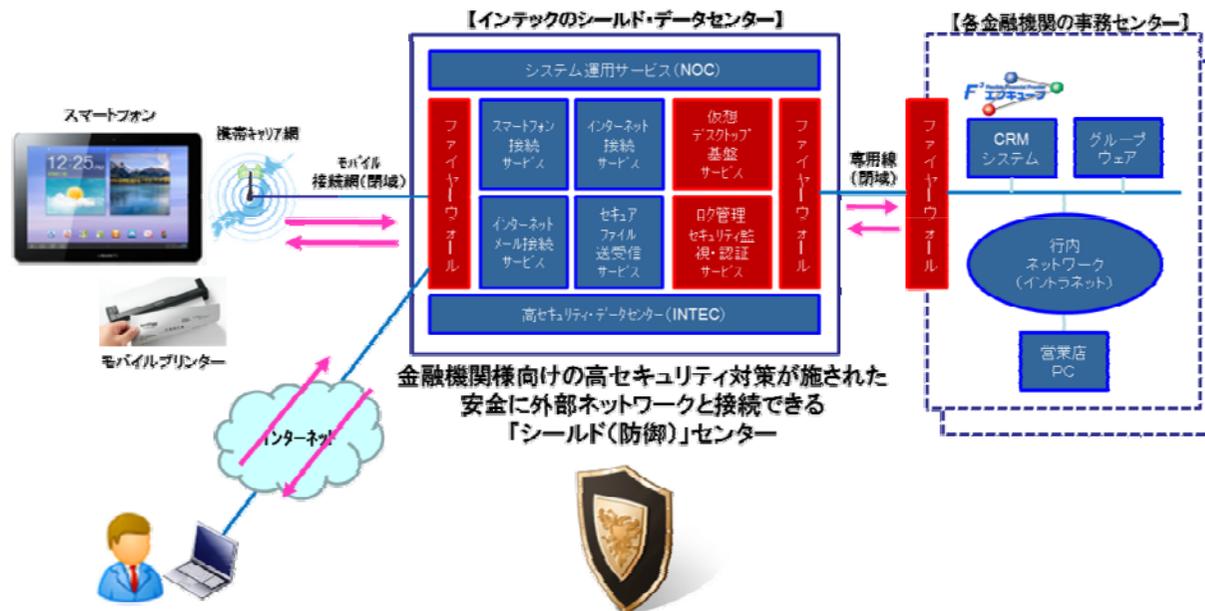
## 注目ソリューション

### F<sup>3</sup>(エフキューブ) Mobile Shield Center Service

金融機関では個人情報を含むお客さまに関する各種情報を店外で利用可能となり、従来であればお客さまの来店時にしか出来なかった提案活動が実施できるだけでなく、店外でのシステム操作が可能になることで、事務処理そのものの省力化を実現。

採用実績:北國銀行様

### F<sup>3</sup>「Mobile Shield Center Service」の概要



### F<sup>3</sup>(エフキューブ)シリーズ

CRMシステム、SFAシステム、コールセンターシステムなどを、業務機能の体系化と業務単位のコンポーネント化で合理的なシステム導入と拡張性を実現した、金融機関向け「統合型CRMシステム」。

採用実績:金融機関向けに90社以上の販売実績。特に地方銀行向けに過半のシェアを保有。

新グループ  
フォーメーションの定着

グループ経営基盤及び  
収益体質の強化

トップラインの伸長と  
ストックビジネスの拡大

中期的展望に立ったサービス化・  
ソリューション化への備え(投資)

**注目ソリューション**

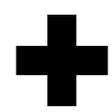
電話の向こうのお客様の「いま」が見えるクラウド型サービス:Callクレヨン(コールクレヨン)  
特許出願中の「PhoneCookie®」技術を活用してWebと電話の融合を実現します。

採用実績 楽天トラベル様、大手人材系メディア様、大手ネットサービス事業者様 他

ソリューションの特徴  
お客様がWEBサイトのどこを見て電話してきているのかを、コールセンターで電話を受けた際に把握することができます。このことにより、業務効率及び提案力の向上を実現できます。



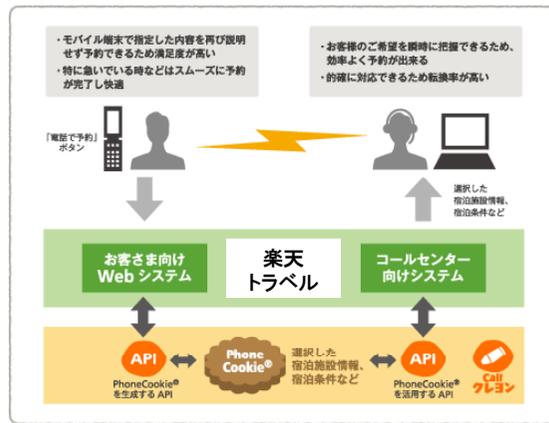
**WEBの良さ**  
利便性、効率、情報、素早さ



**電話の良さ**  
あたたかみ、安心感、親しみ



**Web・電話連動型  
顧客接点強化ソリューション**



オペレータとユーザが画面を共有しているので、画面上に表現されていることが前提で通話を始められる

- ⇒ ストレスなく通話ができる
- ⇒ 同じ時間で多くのコールに対処できる<効率性向上>
- ⇒ スムーズなご案内により転換率を向上<売上の向上>

※楽天トラベル様導入事例  
<http://callcrayons.jp/project/case/index.html>

2012年3月期第2四半期(累計) 業績概要

2012年3月期通期 業績見通し

重点施策の進捗状況

参考資料

# ITHDグループ 2012年3月期第2四半期 プレスリリース一覧



発表日付	タイトル
2011/07/01	三菱東京UFJ銀行とTISとの公金収納業務に関わる合弁会社設立について(TIS)
2011/07/06	中央システム、社内の管理業務を支援する中小企業向けクラウドサービス『smart works』を開始(中央システム)
2011/07/12	「NAXスマートデバイスソリューション」提供開始(ネオアクシス)
2011/07/13	統合ログ管理製品「快速サーチャーLogRevi(ログレビ)」に新機能を追加(インテック)
2011/07/15	TIS、ハイブリッド・グループウェア「ナレジオン」にPDF作成オプション、電子印鑑オプションを追加(TIS)
2011/07/19	インテックがホームページのIPv4/IPv6アクセス比率を解析するアクセス解析ツール「IPv4/IPv6メーター」を無償で提供(インテック)
2011/07/20	TIS、スマートフォンのGPSとAR機能を活用した情報配信プラットフォーム「SkyWare」を提供開始(TIS)
2011/07/21	仮想化環境の監視・管理ツールMoonWalker Version2.2をリリース(クラウド・スコープ・テクノロジーズ)
2011/07/25	ネクスウェイ、“つたわる”をデザインするクラウドサービス『NEXLINK』提供開始(ネクスウェイ)
2011/07/28	インテック、企業向けスマートデバイス対応セキュリティサービス「EINS/PKI+ for Smart Device」を10月3日より提供開始(インテック)
2011/08/01	販売管理システム「社長の右手」中国対応版発売(インテック)
2011/08/04	ネクスウェイとドリーム・アーツ、チェーンストアの経営と現場のPDCAサイクルを支援する『店舗matic』にコミュニティ機能追加(ネクスウェイ)
2011/08/08	アグレックス、「P-Pointer」の管理者向けオプションツール「P-Pointer集計オプション」を発売(アグレックス)
2011/08/11	インテック、東ソーとレジオネラ属菌検出試薬を共同開発(インテック)
2011/08/16	TISの情報配信プラットフォーム「SkyWare」を長野県佐久市が採用(TIS)
2011/08/22	AJS 子会社AJSソフトウェアの吸収合併のお知らせ(AJS/AJSS)
2011/08/25	TIS、「マシンルーム アセスメントサービス」の本格提供を開始(TIS)
2011/08/29	TIS、「ナレジオン」の新メニューとして占有型クラウドサービス「ナレジオンLiveOn サービス」を提供開始(TIS)
2011/08/30	個人投資家を対象とした投資及び景気動向に関する第9回「定点観測レポート」発表(キーポート・ソリューションズ)
2011/09/01	業界初クラウドからVLAN環境まで見える化する監視・管理ツールMoonWalker CE VLANをリリース(クラウド・スコープ・テクノロジーズ)
2011/09/05	仮想化技術情報専門サイトの運営を通じて、仮想化技術の認知・普及を促進(キーポート・ソリューションズ)
2011/09/26	TIS、事業継続計画(BCP)の策定・見直しのスピードをアップする「BCP 簡易アセスメントサービス」の無償提供を開始(TIS)
2011/09/28	TIS、『IFRS固定資産管理ソリューション』の提供を開始(TIS)
2011/09/29	携帯サイトのWebアクセス解析支援モジュール「CIVAL」を発売(キーポート・ソリューションズ)
2011/09/30	NTTドコモが、スマホのアプリにTISの情報配信プラットフォーム「SkyWare」を採用(TIS)



## IT Holdings

**(ご注意事項)**

- ・本資料ではITホールディングスを略称名(ITHD)にて記載しています。
- ・本資料における一切の記述内容は、ITHDグループ(ITHDおよびグループ会社)の現時点における入手可能な情報に基づき、一部主観的な前提をおいて合理的に判断したものであり、将来の結果は様々な要素により大きく異なる可能性があります。